

第1回名取市地域福祉計画策定委員会 議事録

○日 時 令和6年7月26日（金） 14時～16時
○場 所 名取市役所6階第3会議室
○出席者 <委 員>
佐藤（宏）委員、洞口委員、工藤委員、今野委員、奈尾委員、
相澤委員、川村委員、丹野委員、渡辺委員、齋藤委員、榊井委員、
<欠席委員>
兎澤委員、久米委員、佐藤（則）委員、山田委員
<事務局>
安部健康福祉部長、大元課長、高橋課長補佐、千葉係長、
サヘルリサーチセンター橋本氏

○内 容 別紙、次第のとおり 進行：高橋課長補佐

1. 開 会

2. 委嘱状交付

代表受領 佐藤（宏）委員

3. 市長あいさつ 我妻副市長（市長代理）

4. 委員紹介 名簿順に自己紹介

5. 委員長及び副委員長の選任 我妻副市長仮議長

- ・名取市社会福祉協議会相澤委員を委員長に選任
- ・社会福祉法人みのり会今野委員を副委員長に選任

※我妻副市長退席

※審議会等の会議の公開について

「名取市審議会等の会議に関する要綱」により、原則公開となっている。会議の日程等をホームページなどに掲載し、傍聴していただくもの。会議録については、概要記録の方法で記録すること確認

6. 議 題

議長：相澤委員長

※委員会の成立について

15 名中 11 名の委員の出席、半数以上の出席により本日の委員会の成立を確認

(1) 名取市地域福祉計画の改定について 資料 1 により事務局説明

<質疑、意見>

委 員：現計画は、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体化して作成したことから、地域福祉計画だけでなく、地域福祉活動計画の実施状況の説明もしてほしい。現計画策定時の委員会にて、進捗状況の報告をお願いしていたが、この報告をしていただく機会はあるのか回答がほしい。

また、仙台市では予算をかけてひきこもりに関する調査を行ったようだが、市の新たな計画においては、何かしら予算を措置してひきこもり対策に関する施策の実施が必要であると考えます。

委 員：民生委員では、直接ではなく、見回りなど通常の活動範囲内での調査を実施したが、具体のことまで把握していない。

委 員：個人情報の問題があり、民生委員の活動は限界があるので、仙台市のような調査も必要ではないかと思う。

委 員：今回、地域福祉計画と地域福祉活動計画を別個に策定する理由を説明してほしい。

事務局：市と社協の各々が計画の策定主体となり事業を展開していこうという考え方で計画自体を切り離すこととした。ただし、基本理念や方向性などは共有し、連携協力体制により各事業に取り組む考え方は変わりはない。

委 員：地域福祉計画策定のため予算化はしているのか。

事務局：令和 5 年度に実施したアンケート調査と今年度の会議運営等に関する予算化をしております。

委 員：市との社協の連携を綿密にするということだが、この策定委員会の中では、

社協の事業は関与しなくていいのか。

事務局：策定委員会では、市の地域福祉計画を策定するための意見をいただくものとなります。社協では、地域福祉活動計画を作るための委員会を設置すると聞いております。

委員：地域福祉計画と地域福祉活動計画の関連性ですが、市で作った地域福祉計画の内容を踏まえ、両計画は切り離して、社協は社協で個別に地域福祉活動計画を作るということがいいのではないかと考えます。

委員長：社協の立場となるが、現行の地域福祉活動計画は、市の地域福祉計画の一つ一つの項目に対し、社協として実施可能な施策を位置付けた内容である。今回の計画策定についても、市の進捗状況や内容を参考にしながら、策定を進めていきたいと考えている。

委員：両計画の理念、方向性、内容の共有化を含め、連携を密に作成を進めてもらいたい

委員：新たな計画を策定するにあたっては、現行計画の評価、総括が必要だと考える。

事務局：実施状況については、次の議題で説明します。

(2) 現計画の実施状況について 資料2により事務局説明

(3) アンケート調査結果について 資料3によりサベリサーチセンター説明

<質疑、意見>

委員：障がい福祉の関係だが、報酬改定により報酬が下げられ、サービスの低下が目立っており、事業者のサービス提供に影響が出ている。

また、ひきこもりの問題であるが、50代の自死者が増えていることが社会問題化している。

75歳以上の男性の4分の3が他人との関係性が希薄化しているとの調査結果

があり、自身の地域でパークゴルフ場設置に向け動こうとしている。
また、名取市では県内で2番目に介護保険料が高いことから、このような負担を減らしていくための施策の実施も必要ではないか。

委員：地区民運動会はなくなったのか。

事務局：小学校と地区民を一緒にしている地区があり、単独の地区民はない。

委員：地域行事の廃止などにより地域の交流が希薄化している。地域で頑張って何かに取り組んでくださいではなく、高齢者の健康大会のような交流を図れる施策を位置付けるべきではないか。

委員長：このような意見も新たな計画に盛り込む検討をしていただきたい。

委員：資料1で説明のあった「属性・世代を問わない相談・地域づくりの実施体制」という部分について、市にはコミュニティソーシャルワーカーが置かれていないという現状もある中、ワンストップの窓口があってもいいと思うが、市としてどういう体制をイメージし、どう計画に盛り込むことを考えているのか。

事務局：現在、市では、各分野ごとにそれぞれ相談支援体制を作って対応しているところであるが、どこに相談をしていいかわからないという声もある程度あると思っている。

これまでになかったようなヤングケアラーとか、ひきこもり、孤独死の問題などを受け止めるワンストップの窓口というのも必要と捉えているが、今あるものを活用して連携していくのか、それとも、新たに窓口を設置するのか、現時点、はっきりとはまだ決まっていなくて、皆さんのご意見をいただきながら、今回の計画に盛り込めればと考えている。

委員：現行の計画策定時に、名張市の「まちの保健室」が、ワンストップ窓口の事例として、事務局より提示されたが、実施体制や財政等の課題があり、実施には至っていないと認識しており、今後、いろいろなことが相談できるワンストップの窓口を市内に1か所でも設置してほしいと考えている。

委員：今回のアンケート調査は18歳からとなっている。常日頃、子供たちも当事者として何か得られるよう、発言し、意見が反映されるような仕組みを作ることにより、この経験が5年後、10年後の若い世代の地域参画に繋がってくると

思っている。

今後、アンケートなどを実施する時は、子どもも当事者として入れていただけるような仕組みを作っていただきたい。

委員：計画の周知についてだが、例えば、民生委員の役割などを多くの市民に知っていただくために、市のホームページに掲載するだけでなく、何らかの方法が必要になると考える。そのために、コミュニティソーシャルワーカーがいて、地域に広めたり、地域をまとめたりすることが必要と考える。

また、SDGsの発想を取り入れ、持続可能な社会づくり、仕組みづくりを意識した計画づくりが必要と考える。

委員長：社協の立場で回答するが、コミュニティソーシャルワーカーの設置は、大変重要な課題として捉えていたが、財政的な問題で実施に至らなかったものです。

委員：計画の実行においては、予算的な裏付けが必要となるが、高齢化の進展による担い手の不足に対し、いかに人材を育成するかが課題であると考ええる。

（４）今後のスケジュールについて 資料４により事務局説明

<質疑、意見>

委員：パブリックコメントとは何か。

事務局：最終的な計画案をホームページへの掲載したり、市の窓口を設置し、広くご意見をいただく機会をつくるものです。

委員長：委員会の開催以外に、各委員において、何か気づいた点や提案などがあれば、事務局に申し出ることは可能か。

委員：今後の進め方については、地域福祉計画及び地域福祉活動計画における成果指標や各施策の進捗状況の報告をまず行うべきで、その後に、素案の提示があるべきと考える。

事務局：策定委員会の内容については検討します。

(5) その他

特になし

(6) 閉会